

企業理念

沖電気は「進取の精神」をもって、情報社会の発展に寄与する商品を提供し、世界の人々の快適で豊かな生活の実現に貢献する。

会社の概要 (2003年9月30日現在)

商号	沖電気工業株式会社
英文社名	Oki Electric Industry Co., Ltd.
創業	1881年 (明治14年)
設立	1949年11月1日(昭和24年)
資本金	67,862,364,568円
株主数	108,754名
従業員数	単独5,547名、連結21,679名

沖グループの状況 (2003年9月30日現在)

国内子会社	74社	(内連結子会社40社)
海外子会社	43社	(内連結子会社40社)
子会社計	117社	(内連結子会社80社)
国内関連会社	27社	(内持分法適用会社2社)
海外関連会社	1社	
関連会社計	28社	(内持分法適用会社2社)

目次

株主のみなさまへ	2
当期の概況(連結)	3
連結財務諸表	5
単独財務諸表	7
第3次構造改革～成長フェーズへ	9
商品トピックス	11
株式の状況	13
役員	14

株主のみなさまへ

第80期中間事業報告書（2003年4月1日～2003年9月30日）をお届けするにあたり、株主のみなさまへごあいさつ申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、株式市況の回復や景気回復への期待感の高まりという明るい面もみられましたが、中間期末に向けての急激な円高もあり、本格的な景気回復への道のりは予断を許さない状況でありました。

当社の事業領域におきましては、IT関連投資の伸び悩み、金融機関の投資抑制など厳しい環境が続いております。また、半導体市況はゆるやかな回復にとどまっております。

このような厳しい市場環境に加え、東北地方を震源とする地震により、半導体生産子会社の宮城沖電気株式会社の生産ラインが一時的に停止するという事態となりましたが、当社の連結業績は、全体としては構造改革の効果もあり、当中間期の連結売上高は前中間期比12.2%増の2,813億円、連結中間純損益につきましては、二度の地震による災害損失31億円、事業構造改革の一環として引き続き人材の流動化を推進した結果の特別退職金16億円などを計上した結果、前年同期の115億円の損失に対し105億円の損失となりました。

なお、単独の業績につきましては、売上高は前中間期比7.0%増の1,719億円となり、当期純損益は前中間期の95億円の損失から73億円の損失へと改善いたしました。

中間配当につきましては、株主のみなさまには、はなはだ申し訳なく存じますが、見送ることとさせていただきます。

当社では2002年度より中期経営計画「フェニックス21飛翔」に基づく経営改革を進めてきました。2002年10月には「フェニックス21飛翔」計画をより強固なものとするため、「第3次構造改革」を策定し、急激な市場環境の変化に対し柔軟に対応できる事業構造の構築と成長期待分野への積極的投資を柱とした、将来に向けての経営基盤の強化はほぼ完了し、成長フェーズへ移行いたしました。

これらの諸施策の展開により、沖電気グループの経営基盤は確実に強化され、大幅な成長が期待できる分野での積極的な事業展開や諸投資の実施により、収益力の強化と持続的な成長を図ってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、
なお一層のご支援ご協力を賜りますよう
お願い申し上げます。

2003年12月

取締役社長・CEO

蔭塚勝正

